

# おおくま

議会だより

2013  
平成25年  
2月1日発行 No.23



さむいのもへっちゃら～

熊町・大野幼稚園

12  
月  
定  
例  
会

議場で作文披露	2
補正予算	4
3人が一般質問	5
全員協議会報告	8
サークル紹介 扇町サロンさくら会	12

えりか  
大熊中学校2年生 岡田愛莉花さん  
作文コンクールで高評価

# 場で披露

全日本中学生水の作文コンクール 優秀賞

「あたり前の生活」

全国中学生人権作文コンテスト 法務省人権擁護局長賞

「たった1秒の『ありがとう』」

東北電力中学生作文コンクール 福島県優秀賞

「故郷を忘れない」

議会最終日に、大熊中学校2年岡田愛莉花さんが3つのコンクールで高評価を受けた3  
作文を披露しました。そのひとつ「たった1秒の『ありがとう』」を掲載します。



## たった1秒の「ありがとう」

大熊中学校二年 岡田愛莉花

三月十一日。東北そして私達の故郷を恐ろしい地震と津波、予期せぬ原発事故が襲った日だ。私達家族は、地震発生直後の真暗闇の夜を祖母の車の中で過ごし、翌朝大好きな故郷を離れた。すぐに戻れるだろう。移動用バスの中で私は軽い気持ちでそんなことを思っていた。だが、原発から漏れ出た放射能は、私達をそう簡単には戻してくれなかった。

避難所に到着し、私達はここでしばらく過ごすことになった。母や祖母の不安そうな表情を見て、私の頭は混乱した。その日は疲れて寝てしまった私に、翌朝次々と問題が襲ってきた。お風呂がない。トイレが流せない。着替えもない。歯も磨けない。今まで当たり前として行ってきたことが、当たり前ではなくなっていたのだ。それは、二か所目の避難所に行っても同じだった。広い体育館では、いつ誰が見ているか分からない。人前で着替えなどできるはずもなく、布団の中で隠れながら着替えた。夜になり、みんなが寝静まると、赤ちゃんの泣き声や話し声、人の動く音など、べつすり眠ることさえできなかった。一日おにぎり一個の日もあり、数少ない食べ物の中には、賞味期限が切れているものもあったが、誰も文句など言わず黙々と食べていた。毎日知らない人と過ごし、ダンボールで囲まれた場所での生活は、暗いトンネルの中に入り込み出口の見えない状態であった。

避難生活をしている間、私達は人間としての人権や自由を完全に奪われていた。「被災者だから我慢しなければならぬ」と祖母に言われた。そのことは十分頭では理解している。でも、そんな状況が一月も続くうちに私の心は壊れていった。ささいな事でもすぐ怒り出したり、涙ぐんだりしていく自分の心の弱さが自分で許せなかった。精神的に追い込まれていく自分の心が「コントロールできなくなっていく」。そんなボランティアの人達の献身的な心遣いに、私の心が少しずつ和らいでいった。優しい一言に温かい光を感じた。救われた。そして、自分を取り戻せた。

その後、私達は会津若松市に避難した。初めは「また嫌な思いをするのだろうか」と不安だった。だが

心に響いた想いに涙する

# 議会最終日に議

会津の方の温かい心は、私達に生きていく勇氣と安らぎを与えてくれた。避難先のホテルでは、部活を終えて帰ると、スタッフの方が優しい笑顔で「おかえり」と言ってくれ、おいしいご飯を用意して待っていてくれた。子供たちと遊んだり、お年寄りには世間話をして笑わせたりして心を和ませてくれた。私はここでようやく「人間らしい心と生活」に戻ることができ、人の心のぬくもりをひしひしと感じることができた。全ての人間に平等にあるもの、それが「人権」であったはずだ。では、私達の体育館での生活には果たして人権があったのだろうか。「被災者だから」という一言の言葉で片付けられ、プライバシーも安らぎもないあの生活の中に人権はなかったのだと思う。

ある日、母の車の窓から外を見ていると、私の目は看板の言葉にくぎ付けになった。

「立葵のてっぺんの花が咲くと梅雨あけです。』ありがとう』は、たった一秒の言葉です。暑さをのりきってがんばろう。』

私はすぐに口ずさんだ。「ありがとう』確かに一秒だ。私の心が梅雨あけのようにさわやかに晴ればれとなっていくのを感じた。

先日、学校に支援のレトルトカレーが届き十袋ずつ配られた。私は「十袋も重いな。他にも荷物あるし。持ち帰るの嫌だな。」と心の中で思っていた。その時、教頭先生から「今日のカレーは兵庫のある会社からいただきました。震災から一年以上も経っているのに、今もこのように支援して下さいます。皆さん感謝の気持ちを持って家族で味わって食べて下さい。」という放送が入った。私は頭を殴られた思いで、自分のすさんだ心が恥ずかしくなった。その時ふと、先日見た看板の言葉が頭に浮かんだ。「たった一秒の『ありがとう』を私は忘れていたのだ。私達は支援していただけることに慣れてしまっていないか、当たり前前に思ってしまうのではないだろうか。私は、自分の心の中にある「慣れという恐ろしさ」にがくせんとした。

体育館に避難した時の辛さや苦しさ、そして今の生活の不便さに不満を持ち、自分が出来ないのは誰かのせいだと、相手を責めることばかりしていた自分に気づいた。確かに避難した時は、人間らしい環境ではなかった。人間としての平等や自由も与えられなかった。しかし、今は世界中の人の温かい支援に助けられて生活している。私達は世界中の人への感謝の心を忘れてはいけない。

今は、故郷にも自宅にも帰れない。これから先どうなるのかという不安もある。たくさんの「ない」の中で私は人間としての尊厳だけは決してなくさないようにしたいと思ってる。そして、「たった一秒の『ありがとう』の重みを心に刻んでおきたい。

# 故郷の防犯のために 町内の見回り隊 パトロール始まる

## 主な事業

平成24年12月定例会は12月19日から21日までの3日間の日程で開催されました。定例会では一般会計補正予算を始め、専決処分1件、特別会計補正予算など8件を含む10議案を審議し、いずれも原案通り可決しました。

### 見回り隊パトロール業務委託

1135万円

区域再編により居住制限区域、避難指示解除準備区域への立入りができるようになりま

した。  
これにともない、町独自の防犯対策が必要となり、総員26人が故郷の防犯パトロールに当たっています。

### 中学校仮設校舎リース

9869万円

中学校の仮設校舎が3月に完成します。校舎は5年間のリースで、初期費用と初年度分のリース料となります。

議会ではコストの比較などを調査し、教育環境の充実を訴えました。

### 仮設住宅除雪

3112万円

昨年の実績が約6000万円であり、今年度予想される不足分を増額補正しました。

### 広域消防無線のデジタル化

5162万円

双葉地方広域消防の無線がデジタル化となります。

デジタル化は以前より計画していましたが震災を契機に防災対策を見直すなかで、事業実施となりました。  
費用は双葉郡の各町村が負担します。

### 小学校改修

550万円

旧河東小学校のバリアフリー化のため改修工事を行います。

避難中でも子供たちの教育に影響がないよう取り組みます。

### いわき仮設住宅集会所改修

120万円

いわき仮設住宅集会所のスロープに屋根を設ける工事です。以前から住民の皆さんより要望があり実現しました。

仲野 剛議員



**問** 進捗状況を議会に提示してはどうか

**答** 内容にもよるが定期的に示す

一般質問

**仲野** 年4回の定例会において、多くの議員より町政に対する一般質問が行われている。執行権がない議員にとつて、ここは唯一自分の政策を提言できる場である。

何カ月もの間に相当な調査を行っている。細かなデータや現在の情勢、さらには関連する法令や条例までも調べた上で、町民の皆さんの生活や福祉の向上につながるかを判断し、自分の考えや政策を提言している。

私たち議員には説明責任があり、自分の政策がどのように検討されたのかを知らなければならぬ。

今後は定期的に結果や進捗状況を議会に提示してはどうか。

これは以前にも提案し、何度が経過報告があったが、震災以降途絶えていた。

今、こういう時だからこそ必要なのではないか。

**町長** これまでも一般質問に限らず、委員会等の意見も必要なのは対応している。

震災以降は状況報告書として提出しているが、全員協議会や委員会が必要なものは説明している。

今後は内容にもよるが、定期的に示し、説明責任を果たしていく。

堀川 巨夫議員



**問** ロードマップを国に求めては

**答** 引き続きスピード感を求める

除染

**堀川** 町民は一刻も早い身の振りかたを決断したいと願っている。

国が町全域のスピーディな除染を行い、年間線量1ミリシーベルト以下に達するまでのロードマップを作成し、3区域ごとに字単位で明示することが喫緊の課題ではないか。

国に要望し今年度内に回答を求める考えは。

**町長** 国の威信をかけて取り組むべき大きな課題であり、妥協や失敗は絶対に許されない。

世界の技術と英知の結集をもつてするならば可能性は十分にあると期待している。

再三、国には要望しているが現実的には難しいことも事実である。

これからの正念場と認識しているので引き続きスピード感を求めていく。

**全域帰還**

**堀川** 町全域の年間放射線量1ミリシーベルト以下を目標に、除染やインフラ整備などに全力投球で取り組み、帰還時期を国が決定した5年後の平成29年3月11日避難解除見込み時期と同日にする考えは。

**町長** 帰還の最大のネックは除染のスピードと効果である。

原発事故の確実な収束と廃炉の見通しなど、町民の安全安心が確保できる環境が整うか否かで慎重に判断すべきであると考ええる。

現在のところ同日とする考えはない。



伊藤 昌夫 議員

健康管理手帳

問 全町民へ配布すべき

答 県民健康ファイルを活用

伊藤 第1次大熊町復興計画の中で、町民が

どこに居住を定めようとも、放射線による健康不安の解消に努めるとしている。

復興が遅々として進んでいない今こそ全町民の健康を守る意味から、「健康管理手帳」を配布すべきであり

①平成23年3月11日以降の正確な行動  
②放射線被ばく線量の集計

③がん検診及びその他

疾病検診

④内部被ばく検査、甲状腺検査

以上の内容を正確に明記し将来に備えて管理する必要がある。

町は町民に寄り添いサポートするというメッセージを発信すべきである。

町長

町としても不安解消、避難生活を支える重点事項と位置づけ、県内3力所で総合健診を実施している。「健康管理手帳」に

については、県が今年度内配布予定の「県民健康ファイル」の活用を考えている。質問にある4つの事項すべてが記録保存できる。

低線量被ばくの健康への影響を中心とした県民の健康管理は、県が一元的に管理することが重要であり、町として作成は考えていない。

なお、区域の編成に伴い、パトロール隊や職員が線量の高いところに入る機会が多くなっている。今後町民の放射線管理はデータベース化していきたい。

## 災害公営住宅の具体的取り組みを町に申し入れ 今後は全員協議会で対応

### 申し入れ内容（抜粋）

1. 早急に具体的な意向の取りまとめを開始し、ほぼ確実な入居者名簿によって、必要数特に高齢者及び障がい者向けの戸数を地域別に明確にして、入居予定やその方法等計画を町民に明らかにすること。
2. 間取りや設備、物置や駐車場、家賃水準など、国策の犠牲になった町民の立場に即したニーズを、事業主体である国・県に対して、被災当事者である町が強く働きかけること。

上記の内容など、早急を実施するよう平成24年11月6日、町長へ申し入れを行いました。今後は、災害復興に関する協議事項が多岐にわたること、全員協議会と調査が重複するなどの意見があり、1年を経過したこの機に全員で携わるのが良いとの結論に至りました。

# 大川原地区先行除染 福島第1原子力発電所の現地視察

11月27日、大熊町の復旧、復興の拠点となる大川原地区を視察しました。  
除染の作業期間は12月～3月を予定しており、除草、表土剥ぎの手法により行われます。

また同日、発電所を視察し、増え続ける汚染水、行き場のないガレキについて説明を受けました。

帰還に向け問題が山積していることを改めて確認し、今後の議会活動に反映させていきます。



先行除染エリア視察



保管場所整備状況確認



免震重要棟



汚染水1000tタンク

## 中間貯蔵施設の事前調査に関わる 環境省の考えを聞く

12月5日、中間貯蔵施設の事前調査について全員協議会を開催しました。環境省の奥主環境審議官、藤塚中間貯蔵施設チーム長、小林環境局長に出席を要請し、事前調査に関わる説明を受けました。質疑応答では様々な疑問点を追及しました。

**奥主審議官** 8月19日

に榎葉町1カ所

大熊町9カ所、双葉町2カ所の12カ所で説明したが、その後の検討で大熊町の9カ所を6カ所に見直した。

### ① 中間貯蔵施設の概要は次の通り

・福島県には、除染等に伴い生じる土壌や廃棄物の量は膨大であり、これらを最終処分するまでの間、安全に集中的に管理保管する施設である。

・ 持管理は国で実施する。

・ 仮置き場の本格搬入開始から3年程度(平成27年1月)を目途として施設の供用開始に最大の努力をする。

### ② 構成する主な施設

・ 受入・分別施設

・ 貯蔵施設  
・ 減容化施設  
・ モニタリング施設  
・ 研究施設  
・ 情報公開センター

### ③ 施設に関わる人員の規模

・ 建設時  
約1000人／日  
・ 施設の運用人員  
約1000人／日

### ④ 安全確保の方法

・ 覆土による遮蔽効果  
5 cmで51%減  
10 cmで74%減  
15 cmで86%減  
30 cmで98%減  
・ 建設作業に当たり

敷地及び周辺エリアの除染を行い、作業環境の改善を図る。

・ 運搬車輛の表面から1m離れた位置で最大線量が100μSv/h以下で管理。

**国** 大熊町の9カ所を6カ所に変更した理由として、熊川は鮭が上る川であり復興のシンボルであること。

熊川の上流は急流で、河口が緩やか適度にくねっっていて自然な形で災害に対処してきた川と判断でき、熊川周辺の3候補地を外した。

**問** 熊川から榎葉の海岸線には適した場所はなかったのか。

**国** 南の榎葉町から順に地形を追って、運動公園や駅周辺等富岡町を4つに分け

て検討した。駅の周辺は津波被害の大きい場所であり利用は難しいと判断した。

同じ地形と考えられる場所は小良ヶ浜と運動公園の間であり、地質は適していると思われるが、地下水は海側が高く陸側が低くなってお

り、水の処理が困難だと判断した。水処理の問題・津波被害でなかなか必要な容量が確保できる適地がない。

**問** 適地の判断について理解する人は少ないと考える。特に榎葉町は平成25年度に帰還宣言をしてい

る町であり、状況を確認し踏まえ判断してほしい。

**国** 大臣、副大臣に報告する。

**問** 迷惑施設にしないとの説明があった

が、町民は周辺には住めないと考えてしまふ。生活環境をどう考えているのか。

住めるような環境の中に施設を造るかどうかの論議はしているのか。

**国** ①当然、施設を造っても帰って頂ける環境をつくっていく。そのため除染をしっかりとしていきたい。

②町づくりとも密接な関係があり、将来どんな姿にするのか。どんなイメージが良いのか。町とも議論しながら進めていく。

③研究施設では除染という今まではない大作業の社会への説明と理解活動を視野に考えている。

環境省の国立環

境研究所がタイプアップする話も進んでいる。

折角施設を造っても復興に繋がらなければ意味がないので、環境省のみではなく他の省庁とも連携しながら進めていく。

**町長** ①調査と建設は別。

②地権者への説明責任を果たす。

③調査に入ったら逐次報告する。

この3点を条件に知事のリーダーシップのもと、調査に協力しましょうと決めた。

持ち帰り議会で説明すると言ったがその繰返しでは進まないとの町村会の判断があり決定に至った。

調査は町の復興計画に密接に関わり、施

設を造ったらその周りには住めないんじゃないかと先入観を持っている人も大勢いる。率直な気持ちと考える。安全性を担保する説明をしっかりとしてほしい。

最終処分地について、30年後に本当にできるのかと言われたら答えようがない。

法制化して具体的なものを提示してそれができない場合の留保条件とかが絡んでくると思う。

責任を持って最終処分場にはしないという裏付けがほしい。

復興計画に併せ再生エネルギーの基地にします等夢を持たせる形での提示も必要だと思う。

**問** 区長や農業団体への説明はどうするのか。

**町** 12月13日、区長会での説明を予定している。地区住民の説明会は調査地区ごとやるのか、行政区単位でやるのか調整中である。

**問** 調査の実施は、候補地3町の足並みが揃った段階なのか、理解が得られた町から先行するのか。

**国** 足並みを揃える努力を引き続きしていくが会話もできない町もある。理解されない場合は先行もあり得る。

## 東京電力に現場の状況と今後の対策について聞く

11月26日に東京電力石崎副社長、皆川福島支援室副室長他出席のもと、発電所の現状について説明がありました。発電所の安定は、今後の復興へ大きく関連があり、現状の不安な点など質疑がありました。

**石崎副社長** 「再生への経営方針」を11月7日に発表した。具体的アクションプランを71項目作ったが、一番最初にやらなければならないのは、福島の方々のために責任を全うすること。その一つの手段として「福島復興本社」をつくる。

**資料説明**

が着実に進展。

「再生への経営方針」を11月7日に発表した。具体的アクションプランを71項目作ったが、一番最初にやらなければならないのは、福島の方々のために責任を全うすること。その一つの手段として「福島復興本社」をつくる。

①海水中放射性物質濃度、敷地内ダスト放射性物質濃度及び敷地内放射線量の推移。

⑥4号機使用済み燃料プール・原子炉の健全性を確認。

②注水冷却の継続により低温で安定状態にすると共に、状態監視を継続。

②注水冷却の継続により低温で安定状態にすると共に、状態監視を継続。

⑦燃料デブリ（溶解し再固化した燃料）取り出しに向けた対応。

③地下水流入により増え続ける滞留水への多面的に対応。

③地下水流入により増え続ける滞留水への多面的に対応。

⑧放射性廃棄物の管理・処理・処分に向けた対応。

④敷地外への放射線影響を可能な限り低くするための取り組み。

④敷地外への放射線影響を可能な限り低くするための取り組み。

⑨要員確保、作業安全確保に向けた取り組み。

⑤使用済み燃料プールの燃料取り出しに向けた作業

⑤使用済み燃料プールの燃料取り出しに向けた作業

**問** 4号機だけがクローズアップされているが、1〜3号機も情報公開すべき。進捗はどうなっているのか。

⑤使用済み燃料プールの燃料取り出しに向けた作業

⑤使用済み燃料プールの燃料取り出しに向けた作業

⑤使用済み燃料プールの燃料取り出しに向けた作業

**答** 4号機は使用済み燃料取り出しで作業が先行している。

3号機はガレキの撤去をしており4号機の1年遅れで使用済み燃料取り出し準備を進めている。

2号機は圧力容器の温度計対策、1号機は格納容器の中にカメラと線量計・温度計を入れて中の状況確認をする。

**問** ガレキは将来どのような保管をするのか。減容計画はあるのか。

**答** 可燃物は焼却処分、金属・コンクリートについては仮保管し、将来的にはきちんと処分するための技術検討を進めている。

**問** 滞留水はどのようなのか。

**答** 滞留水問題は最大の問題で、現在は

タンクを増設して保管しているが、まず原因の地下水対策として井戸を掘り発生量を減少させる。

**問** 1〜3号機で放射性物質放出量が0.1億ベクレル(事故当時の8000万分の1)とあるが、放射性物質はまだ出ているのか。

**答** 事故後に建屋の中に溜まっている放射性セシウムが出ています。

放射性物質の量を測定し除去装置を設置している。

**問** ①3号機の燃料プールに鉄骨が落ちたが、燃料は大丈夫なのか。

②2号機の格納容器の水位60cmで冷却が継続できるのか。

**答** ①プールの中がカメラで点検したが、ラックの損傷

はなく、水質も放射性物質の濃度も高くない燃料破損もないことを確認している。

②格納容器で漏洩があり水を注入しても抜けてしまい60cmで推移しているが、4度くらいで安定した状態にある。将来的には漏洩力所を特定し処置していく。

**問** ①今後汚染水などの位の期間おくるのか。

②ガレキの発生量はこの位で、何年おくるのか。

③メガフロートはどうして水を抜いて移動させるのか。

④起こってしまったのだから何年間我慢していると腹を割った説明がほしい。

結論として言いつらいと思うが、ほ

ぼ間違いなく住めるようにしますよと一言がほしい。

**答** ①②どの課題についても工事が30年から40年になるため、リスクを低減し、慎重に作業を進めていく。

原子力規制庁と合同で技術的に安定した状態を築いていく。

③万が一メガフロートのタンクが損傷すると、放射性物質を海に放出することになり、そのリスクを考慮して敷地内に設置するタンクに移す。

④安全な状態にすることが第一、技術開発が必要なことは当社で国と共同でやっていく。

最終的には安心してお戻り頂くの

が、究極の責任の取り方だと思っている。

技術的に安全だといっても生活が成り立たないわけですから、生活が成り立つようなご用命も含めて、東電として全精力をあげ取り組みたい。

**問** ①多核種除去設備で取れないのであれば、これから増えていくのか。

②働いている人の登録人数の誤差を指摘されているがどうなっているのか。

**答** ①多核種除去設備ではトリチウム以外は全て検出限界値以下になる。

トリチウムは直接水と挙動するので除去はできないが、法律上は濃度基準以下であれば

ば、海洋なり大気なり放出できる。放出できないければ増えてしまつて放出できるよう実績を踏んでいきたい。

②報道で指摘された2万4000人は、従事者登録を足しあわせた人数で、解除された人数も入っていた。

現在は約8000人が登録されており、作業に当たっている人数は社員も含めて5000人〜6000人になっている。

**問** 所長時代の講演を聞き印象に残っている。「町が好きだ。素晴らしい町をどうにかしなければならぬ」と言う気持ちで復興にあたっても

らいたい。

石崎副社長 当時の

気持ちと全く同じだ。

浜通りの土地、環境の良さ、お人柄の良さ、身にしみて素晴らしいと思ってる。一緒になって取り戻したい気持ちに偽りは無い。

一緒に是非やらせて頂きたい。

**問** ①復興本社を浜通りに設置してほしい。

②東電社員は社宅に率先して住んで復興のために働いている姿を見せてほしい。

**石崎副社長** 今後の仕事の中心は、避難されている皆さんが一日でも早く戻れること。そこに一番の仕事があると思う。その思いをしっかりと受け止め判断していきたい。

## 座談会を開催します

議会で町民の皆様との意見交換に伺います。

今回は各種サークル単位で、ざっくばらんな座談会にしたいと考えています。

**開催期間** 平成25年2月～4月目安。(3月5日～14日は定例会予定のため中断)

**開催場所** 別途調整させていただきます。

**対象(例)** 仮設住宅、地域サロン、スポーツサークル、PTA、共同菜園グループ等です。

**対象地域** 東北・関東・新潟県

**その他** 開催にあたっては、サークル名と参加者氏名を代表の方が議会事務局へご連絡下さい。

**連絡先** 議会事務局 ☎ 0120-26-3844 (内線 521) / FAX 0242-26-3788

### 読書活動の成果が実る

新潟県に避難している蓬田怜奈さんが人権作文新潟県大会最優秀賞を受賞しました。

また、福島県教育委員会主催の川柳部門で、二組が入賞する等、読書活動の継続が実を結んでおります。

2012年度全国中学生人権作文コンテスト

(法務省、全国人権擁護委員連合主催)

#### 人権作文県大会最優秀賞

柏崎市立松浜中学校三年

蓬田 怜奈さん(大熊町出身)



福島県教育委員会 17文字のふれあい事業

#### 優秀賞

ばあちゃんのさみしさまぎらす野菜たち

大熊中一年 鳴海 佑斗くん

笑顔出るひ孫と一緒にの土いじり

祖母 高木 厚子さん

#### 佳作

夜の月大きな光が町照らす

大熊中一年 阿部 朱也香さん

故里へつながる空の月美し

母 阿部 良枝さん

# 題字の紹介

今号の表紙の題字は大野小学校4年(平成22年度当時)の根本桃花<sup>ねもとともか</sup>さんです。

全241点の応募から、22点を採用し題字として使わせていただいております。

出品者には大熊町の住所を經由して図書券を贈呈しました。



## サークル紹介

今回は

### 会津若松市 扇町サロンさくら会

をご紹介します。

問 会員数は何人ですか？

答 会員数30名で活動しています。

問 設立目的は？

答 会津地方の人達に温かく見守られ、強い気持ちで懸命に生活しています。

夢と希望を失わず、明日に向かって元気に過ごしたいと、皆さんの希望でサロンを立ち上げました。

問 開催日は？

答 毎月第一水曜日です。

問 現在の活動の内容は？

答 編み物、折り紙、縫い物(福を呼ぶ、ふくろう)、コーラス舞踊を習い活動しています。

ふくろうの置物は大熊町幼稚園、郡山市の幼稚園へ届けました。

仮設住宅のクリスマス会では大正琴、コーラス、舞踊を発表しました。

問 今後の活動予定は？

答 現在の活動を大切に、笑顔で仲良く続けること、「サンライトおおくま」に福を呼ぶふくろうを届けたいとも思っています。

また、色々な施設に訪問に行きたいとも思います。

### 編集後記

久しぶりに目頭が熱くなった。中学生の作文の中で「私が我慢して改善できるなら我慢します。私達ができることは全力で頑張ります。ですから1日でも早く故郷で生活できるよう努力してください。もう一度大好きな大熊町で生活したいと願っています」という言葉があった。大人へのメッセージだろつが、深く心に響いた。お金で買えないもの、それは思い出であつたり人の輪であつたり。忘れかけていた心の豊かさを感じさせられた。政治とは何か、子どもの純粋さから学んだ気がする。

広報公聴委員 仲野 剛

### 広報公聴常任委員会

委員長	加藤 良一
副委員長	阿部 光國
委員	廣嶋 公治
委員	伊藤 昌夫
委員	仲野 剛
委員	吉岡健太郎
委員	石田 洋一
発行責任者	千葉 幸生